

国語 ー 岡山大学 2026 年入試問題分析 ー 岡山進研学院

<p><b>全体講評：</b>設問数・記述量とも昨年並み。難易度は、評論文が難化、古文は昨年並みに難しく、漢文はやや易化した。今回特筆すべきは評論文。設問指示自体はわかりやすいが、解答として簡潔に解答欄内にまとめるのはかなり難しい。小説は本文自体は読みやすく、心情把握も容易だが、対比的に心情を構造化して示すことが求められた。古文は比較的短い本文であるにもかかわらず、和歌が多用されたことによって、全体の意味が捉えにくい。漢文は人物の行動と出来事を整理してまとめるのに差がついたようだ。</p>			<p><b>試験時間</b></p> <p>120 分</p>	
<p><b>難易変化</b></p> <p>易化 / 昨年並 / 難化</p> <p>やや易 / <b>やや難</b></p>				
<p><b>分量変化</b></p> <p>減少 / <b>昨年並</b> / 増加</p>				
大問	区分	出典・著者	分量・小問数・本文／設問特徴	レベル
一	評論文	『争いばかりの人間たちへ ゴリラの国から』 山極寿一	<u>4ページ</u> は昨年と同じ。11 段落。本文注なし。設問5つ。記述量はやや増加。解答欄に合わせて本文の具体例を整理し、必要な要素を示せたかどうかで差がつく。昨年よりさらにまとめにくい。	★★★
二	小説文	『冬物語』 南木佳士	<u>6ページ</u> 。昨年比で3ページ減少。設問数は1問増加し5問に。問二は定番の心情説明。問三は、昨年と同じく読者による鑑賞という形式。設問の言い方を踏まえ、文中の言葉を用いながら根拠から心情を説明する必要があった。	★
三	古文	『吉野詣記』 三条西公条	<u>2ページ</u> 。設問数は5つで、昨年と同じ。問一は現代語訳が4か所で、昨年レベル。問二は古文常識。問三は理由説明で、 <b>掛詞の説明が必要</b> 。問四は内容説明で、 <b>設問条件を満たすことが重要</b> 。	★★★★
四	漢文	『史記』 司馬遷	<u>2ページ</u> 、設問数5題と増減なし。本文はやや長いが読み取りやすい。漢語の読みと句法の習得が求められた。問五は全体を踏まえて、重耳の思惑と公女の切実な心情を対比させる必要がある。	★
<p><b>学習指針：</b></p> <p>評論では設問条件を正しく守って、文章化する練習が大切。小説は表現に込められた心情の理由をしっかりと書くこと。古文は、基本的な単語や文法、古文常識を身につけ、正確な読解力を養おう。</p> <p>漢文は句法と頻出漢語を習得し、話の筋を押さえよう。</p>			<p>※ 難易変化、並びに分量変化は<b>対昨年比</b>。</p> <p>※ レベル表示は次の区分になります。</p> <p>難 → ★★★★★</p> <p>やや難 → ★★★</p> <p>標準 → ★</p> <p>やや易 → (無表示)</p> <p>易 → (無表示)</p>	